

なりたの昔話

第14回

このコーナーでは、昔から語り伝えられてきた成田の昔話や伝説などを掲載しています。

【参考文献】コミュニティ成田No.44（1993年7月発行）

逆さの蚊帳

昔、蚊帳^{*} というものがありました。蚊の季節になると取り出して、部屋の四隅の鉤に引つ掛けてつったものです。夏の風物詩でしたが、昨今はほとんど見かけなくなりました。

蚊帳がいつの時代に登場するものか分かりませんが、川津場に伝わったのはかなり後の時代であつたようです。川津場に、蚊帳にまつわるこんな話が伝わっています。ある夏の日、川津場の男が、お不動様参拝に成田を訪れ、門前町の旅籠に投宿しました。部屋に通されると、中に妙なものがつってあります。見たこともないものでした。

「これ何だ」

男は仲居に尋ねました。仲居は、

「蚊帳と申しましてね、これをつると蚊に食われないんですよ」と答えました。

「フム、これはいい。家でもぜひつてみよう」

そう考えた男は、翌日、蚊帳を一張買い込むと、意気揚々と家に帰りました。さつそく、蚊帳をつろうとしましたが、つり方を聞いてこなかったためうまくつれませんでした。四苦八苦した揚げ句、どうにかつることができましたが、何と上下が逆さでした。

逆さであることに気付かない男は、入ろうと思つても裾が上なので入れません。困った末、はしごを持ち込んで上から飛び込みました。

やつとの思いで蚊帳に入った男、

「これで一安心、もう蚊に食われることはないわい」

と眠りにつきましたが、上部が開いているために蚊がいくらでも入ってきます。蚊の群に襲われて眠るどころではありませんし、蚊帳の底だから出るにも出られず、結局、男は一睡もできず蚊と格闘して一夜を送つたということです。



*川津場は芝山町の地名

編集後記

成田祇園祭の始まりとともに夏の暑さが訪れました。まだまだ続く夏の間は、少しでもお金を掛けずに涼しい気分になりたいもの。電気を使わずに涼を取る、という昔からの方法は侮れません。その1つが、かつてどの家庭にもあつた蚊帳です。蚊帳には、蚊や虫を防ぐだけでなく、蚊帳の中の湿度を50～60%に調整する作用や気化熱で内側の温度を下げる効果もあるとか。先人の知恵は大切にしたいものですね。

平成25年7月15日号 No.1247

成田市のホームページ

<http://www.city.narita.chiba.jp>

リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

広報なりたは、グリーン購入法に基づく基本方針の判断基準を満たす用紙、誰にでも読みやすいUD(ユニバーサルデザイン)フォントを使用しています。